



広報

2026

まつざき 9

No.748



雲見温泉サザエ祭り (7月21日)

7月21日、雲見海水浴場で雲見温泉サザエ祭りが行われ、約700の方が訪れました。

漁船から波打ち際におよそ200㍍、約3,000個のサザエがまかれ、参加者は、子ども・大人の部に分かれて、スタートの合図とともに一斉に海に入ってサザエを探していました。

第49回花壇コンクール・第34回街角の花コンクール

花壇コンクールは、花
いっばい運動の推進
や住民の手によるふ
るさとづくりの推進、花壇
づくりを通しての地域づく
り、地域コミュニティの活
性化を目的に行われており、
今年で49回目となります。

審査は8月3日に行われ、
町長をはじめ、松崎町花の
会会長、グリーンアドバイザー、
県伊豆農業研究セン
ター研究員、賀茂農林事務
所地域振興課職員、有識者
の6人で審査を行いました。

審査員は、応募のあつた
6団体の花壇を1日かけて
回り、取組、努力度、創
意工夫度、技術力度の4項
目を採点しました。

今年も厳しい暑さが続き
ましたが、暑さに負けず
花々がきれいに咲いてお
り、各団体の努力が現れて
いました。

審査結果

【最優秀賞】

松尾区（松尾）

【優秀賞】

桜田区女性会フラワーメ
イツ（桜田）

松崎町花の会（建久寺）

【努力賞】

小杉原「花の親睦会」（小
杉原）

南郷楽寿花の会（南郷）

伏倉区常盤会（伏倉）



▲審査の様子



▲優秀賞 桜田区女性会フラワーメイツ（桜田）



▲最優秀賞 松尾区（松尾）



▲努力賞 小杉原「花の親睦会」（小杉原）



▲優秀賞 松崎町花の会（建久寺）

街

角の花コンクールは、
団体だけでなく、個
人や事業所の花壇、
プランターについても評価
する機会を設け、花いっば
い運動のさらなる推進を図
るために行われています。

審査結果

【最優秀賞】

平野 清子さん（桜田）

【優秀賞】

関美容室（南区）

【努力賞】

菊地 芙紗子さん（江奈）
松崎小学校（宮内）
松崎中学校（江奈）



▲最優秀賞 平野 清子さん（桜田）

【問合せ】

企画観光課（42） 3964

災害時の医療救護所について

○医療救護所とは

大規模災害時には多くの負傷者が出る恐れがあるとともに、通常の医療機関も被害を受けて機能不全に陥る可能性があります。

そのような中、町は、多くの命を救うための医療拠点として医療救護所を開設します。医療救護所を開設するかどうかは、被害状況や負傷者の発生状況などを考慮し、町災害対策本部が決定します。

医療救護所を開設した場合、同報無線や同報無線メールサービス、広報車などでお知らせします。

○医療救護所の役割

賀茂地区の医師や歯科医師、薬剤師などの医療従事者にご協力いただき、運営します。

通常の医療機関と違い、設備や医薬材料などが十分ではありません。そのため、

医療救護所ではトリアージや重症者・中等症者の応急手当が優先されます。

※トリアージとは、負傷者の状態を「重症」「中等症」「軽症」などに分類し、治療の必要性・緊急性が高い人とそうでない人をグループ分けし、治療や高次医療機関への搬送の順位をつけることです。

○医療救護所の開設予定場所・開設期間

開設予定場所は、県立松崎高校の講堂です。

開設期間は、発災からおおむね72時間程度です。これ以上経過すると、応急手当が必要な負傷者は減ってきますので、一般の医療機関の診療に移行していきま

○医療救護の流れ

軽傷者：…ご家庭や自主防災会で処置をお願いします。

重症者・中等症者：…医療救護所で応急処置を行った後、必要に応じて救護病

院に搬送され、そこでもまだ十分でない場合は、災害拠点病院へ搬送されます。

○医療救護所

・県立松崎高等学校講堂
松崎町櫻田188



▲救護所立ち上げ訓練の様子

救護病院

- ・西伊豆健康育会病院
- ・下田メディカルセンター
- ・伊豆今井浜病院
- ・庚申会伊豆東部病院
- ・熱川温泉病院

災害拠点病院

- ・順天堂大学医学部附属静岡病院
- ・伊東市民病院

○日頃からの備えのお願い

・軽度の傷病は、自ら手当を行える程度の医薬品を準備しましょう。

・軽度の事柄は、自己または助け合いにより対処をしましょう。

・自主防災会や消防、医療関係団体などの協力を得て、患者搬送法、応急処置および救急看護技術、トリアージを学びましょう。

【問合せ】

健康福祉課（42）3966

100歳のお祝い

市川 しづか さん

（大正15年7月20日生）

7月21日、深澤町長は介護施設を訪問し100歳の誕生日をお祝いしました。

若い頃には家業の床屋を手伝い、編み物や裁縫を趣味にされていました。長生きの秘訣は、何でもよく食べよく寝ることだそうです。

家族の皆さま、施設職員の方々にも祝福され、とても賑やかに記念撮影などを行いました。



▲市川 しづかさん

【問合せ】

健康福祉課（42）3966

年金生活者 支援給付金制度

年金生活者支援給付金は、公的年金などの収入やその他の所得が一定基準額以下の年金受給者の生活を支援するために、年金に上乗せして支給されるものです。

対象者

老齢・障害・遺族基礎年金を受給している方で、令和8年度において次の支給要件をすべて満たしている方が対象になります。

▼老齢基礎年金受給者

- ・65歳以上
- ・世帯員全員が住民税非課税
- ・前年の公的年金などの収入額とその他の所得額との合計額が昭和31年4月2日以後に生まれた方は80万9千円以下、昭和31年4月1日以前に生まれた方は80万6700円以下

※昭和31年4月2日以後に生まれた方で80万9千円

を超え90万9千円以下である方、昭和31年4月1日以前に生まれた方で80万6700円を超え90万6700円以下である方には、「補足的老齢年金生活者支援給付金」が支給されます。

▼障害基礎年金受給者または遺族基礎年金受給者

- ・前年の所得が479万4千円＋扶養親族の数×38万円以下

請求方法

▼新たに対象となる方

令和8年9月頃から順次、日本年金機構から年金生活者支援給付金請求書（はがき型）が送付される予定です。必要事項を記入し、日本年金機構へ提出してください。

【問合せ】

給付金専用ダイヤル
0570（05）4092
健康福祉課（42）3966

国民健康保険 高額療養費制度について

令和8年8月より、高額療養費の上限額が変わります。

高額の療養費制度の見直しは令和8年度と令和9年度の2段階に分けて実施します。将来にわたり制度を維持するため、医療費の伸びや所得に応じてご負担いただきます。ご理解をお願いします。

変更点

- ①自己負担上限額の変更
- ②年間上限額の新設

※年間上限額の新設により、次の方は医療費負担が軽くなる場合があります。

- ・これまで「多数回該当」に該当しなかった方
- ・見直しにより「多数回該当」の対象から外れる方
- ・現在、毎月高額療養費制度を利用している方
- ・極めて高額な医療を受けた方

【問合せ】

健康福祉課（42）3966

高額療養費制度の上限額 （令和8年8月から令和9年7月まで）

適用区分		年収目安	入院＋外来 【月額上限】 （世帯ごと）＜多数回該当＞	入院＋外来 【年間上限】 （世帯ごと）	外来 （個人ごと） ※70歳以上のみ
70歳未満	70歳以上				
区分ア	現役並みⅢ	約1,160万円～	270,300円＋1% ＜140,100円＞	1,680,000円	—
区分イ	現役並みⅡ	約770万円～約1,160万円	179,100円＋1% ＜93,000円＞	1,110,000円	—
区分ウ	現役並みⅠ	約370万円～約770万円	85,800円＋1% ＜44,400円＞	530,000円	—
区分エ	一般Ⅰ・Ⅱ	～約370万円	61,500円 ＜44,400円＞	530,000円	月額上限：22,000円 （年間上限：21.6万円）
区分オ	—	住民税非課税 【70歳未満】	36,900円 ＜24,600円＞	290,000円	—
—	住民税 非課税世帯Ⅱ	住民税非課税 【70歳以上】	25,700円 ＜24,600円＞	290,000円	月額上限：11,000円 （年間上限：9.6万円）
—	住民税 非課税世帯Ⅰ	一定所得以下 （年金収入約80万円以下など） 【70歳以上】	15,700円	180,000円	月額上限：8,000円

新斎場整備事業について

現在、使用している西伊

豆町斎場は、昭和38年の開設以来、築60年以上経過しており、新斎場の整備は長年の課題となっていました。

町では、西伊豆町とともに西伊豆町田子地区（西伊豆町クリーンセンター隣接地）に新斎場の整備事業を進めています。

当初は、令和9年4月の供用開始を目指していましたが、世界的な社会情勢の変化による建設資材の調達に困難な状況から建設工事

が遅れています。

現時点で新斎場の完成は令和9年9月頃となる見込みですが、今後の情勢によつてはさらに遅れる可能性もあります。

事業の進捗などについては、今後もお知らせする予定です。

皆さまのご理解とご協力をお願いします。

【問合せ】

窓口税務課（42）3968



▲新斎場 完成イメージ



▲新斎場 位置図

防災指導員からのお知らせ

～秋雨前線と台風について～

9月から10月は秋雨前線

が日本付近に停滞することがあります。秋雨前線は北からの冷たい空気と南からの暖かい空気が接することにより発生し、そこに台風が接近すると、台風が運んだ南からの湿った空気が前線を刺激して大雨をもたらすことがあります。

昭和33年9月下旬に伊豆半島を直撃した狩野川台風では、秋雨前線を活発化させて大雨となり、狩野川が氾濫し、千人を超える死傷者が出ました。また、東京での一日の降水量は約372ミリを観測しました。秋雨前線や台風は避けることができない気象現象です。近年は台風の発生前から気象情報の報道などがありますので、そのような情報を見聞きした際には、事前の備えと早期避難の準備をお願いします。

▼事前の備え

- ① 住んでいる場所や職場などの周辺の土砂災害や洪水の危険性を、ハザードマップで把握
- ② 把握した危険からの避難場所、経路、避難開始時期の考察
- ③ 避難のための食料、飲料水などの備蓄と非常持出バッグなどの準備

▼早期避難の準備

- ① テレビやインターネットなどでの継続的な情報収集
- ② 気象台の発表する防災気象情報と町の発令する避難情報の把握
- ③ レベル4の防災気象情報や避難情報では危険な場所から全員が避難（避難は危険な状態となる前に開始することが重要）

【問合せ】

総務課（42）3963

松崎ボートクラブ

国土交通大臣表彰を受賞

松崎ボートクラブ（代表・

端山晋一氏）は松崎港および松崎海岸にて、多年にわたり清掃活動を行い、地域の環境美化に貢献した功績が認められ、令和8年度「海の日」海事関係功労者国土交通大臣賞を受賞しました。

この賞は、海事関係事業や港湾関係事業、海上保安業務において功績があった個人や団体に対して贈られる賞です。



▲下田土木事務所長への受賞報告の様子

【問合せ】

企画観光課（42）3964

姉妹都市との交流

松崎から帯広へ

高橋智子松崎小学校校長を
団長とした松崎小学校6年
生ら14人が、7月29日から
31日までの3日間、帯広市
を訪問しました。

目的は、松崎町の偉人で
あり帯広開拓に尽力した依
田勉三翁の足跡や精神を学
ぶとともに、帯広市の皆さ
んや子どもたちと直接交流
することで、開拓姉妹都市
としての絆を深めたり、松
崎とは異なる歴史や文化を
学んだりするものです。



▲とかち帯広空港到着

百年記念館では、開拓に
まつわる歴史や当時の生活
の様子について学ぶととも
に、勉三翁が開拓にかけた
不撓不屈の精神や帯広の大
地に残した偉大な功績に触
れることができました。



▲百年記念館見学

また、帯広市役所への表
敬訪問や松崎の商店街と姉
妹商店街である電信通り商
店街への訪問、ジャガイモ
掘りや十勝産の小麦粉を
使ったピザ作り、アイスク
リーム作りなどの帯広なら
ではの体験、アイススケー

トといったレクリエーショ
ン、帯広市の児童宅でのミ
ニホームステイなどを通し
て、帯広市の皆さんや子ど
もたちとの交流を深め、有
意義な3日間を過ごすこと
ができました。



▲ジャガイモ堀り



▲アイスクリーム作り体験

帯広から松崎へ

帯広市子供親善訪問団の
小学生ら12人が、8月5日
から7日までの3日間の日
程で松崎町を訪れました。
初日は、伊豆の長八美術
館で光る泥だんごのスト
ラップ作りを体験した後、
帯広市を訪問した松崎の子
どもたちとの夕食や花火を
楽しみました。



▲夕食後の記念写真

2日目の午前には、役場を
表敬訪問した後、依田勉三
翁ゆかりの三余塾資料館と
旧依田邸を訪れ、勉三翁の
お墓にお参りしました。午
後は、松崎の子どもたちと
一緒に、岩地海岸での海水

浴やスイカ割りや松崎の海
を満喫し、夜はミニホーム
ステイを行い交流を深めま
した。

最終日は、重文岩科学校な
どを見学し、松崎の歴史、文
化、自然を全身で感じる充実
した3日間となりました。



▲旧依田邸訪問



▲岩地海岸での海水浴

【問合せ】
教育委員会（42）3971

飛鳥Ⅱが松崎港へ！ 海岸イベントや町民向けツアーで大賑わい

8月1日、豪華客船「飛鳥Ⅱ」が松崎港に寄港しました。

乗客約500人のうち、約300人が下船し、松崎海岸を中心にさまざまな歓迎イベントを楽しみました。

▼大人も子どもも大はしゃぎ！活気あふれる海岸イベント

海岸で開催されたイベントには、昨年を大きく上回るファミリー層が参加し、会場は終日笑顔に包まれました。

▼サザエ狩り、ハマグリ狩り
海岸で自分で獲ったサザエとハマグリをその場で焼いて食べる貴重な体験に子どもたちが大喜びしていました。

▼爽快地海を駆け抜けるバナナボート
大人も夢中になって、夏

ならではのアクティビティを満喫していました。

歓迎イベント実行委員会では、松崎町・西伊豆町の子どもたち向けに2つの特別イベントを実施しました。

▼迫力の船上見学ツアー
両町の子どもたちが遊漁船に乗り、飛鳥Ⅱの周囲を回る見学会を実施しました。

間近で見る豪華客船の圧倒的なスケールに、驚きと感動の声が上がっていました。



▲遊漁船から見た飛鳥Ⅱ

▼砂浜での宝探し&かき氷
飛鳥Ⅱに乗ってきた子ども

もたちと一緒に、砂浜での宝探し大会を開催、豪華景品と交換できる番号入りの札を夢中で探し回り、大いに盛り上がりました。

参加者には冷たいかき氷が無料で振る舞われ、夏の暑さを吹き飛ばす心地よいひとときとなりました。



▲砂浜で宝探しをする様子

町民と乗客の笑顔があふれ、松崎の夏の魅力を一層引き立てる一日となりました。

【問合せ】
企画観光課（42）3964

姉妹都市通信

富士宮市から

今回は、本市のシンボルについてご紹介します。市の紋章は、富士宮市の前身となる大宮町が昭和9年に町章に制定したものを昭和17年に市紋章として富士宮市が制定しました。「宮」の文字を中心に、周囲は富士山を模型にかたどったものです。市の木は「かえで」、市の花は「ふじざくら」

で、富士山麓に多く自生しています。市の鳥は空高く舞いさえずる「ひばり」です。いずれも昭和44年に制定されました。さらに、平成21年には市の魚として「にじます」が加わり、富士山の湧水に育まれた恵みを象徴としています。これらのシンボルは、富士山麓に息づく自然や歴史を今に伝えています。



▲ふじざくら



▲かえで



▲にじます



▲ひばり

松崎高校広報～西豆と共に～

双獅祭～“燃えろ魅せたれ松高魂”～



6月5日・6日、双獅祭が開催されました。長八の「雲龍」を描いたビッグパネルの除幕式でスタートし、校内発表ではクラスTシャツコンテストなどの企画で盛り上がりました。一般公開では今年も地域の飲食店を誘致し、地域一体となって賑わいました。生徒は「過去の反省を生かすだけでなく、互いの得意不得意を考慮して全員で協力し、試行錯誤を重ねて創り上げることができた」と振り返り、成長と絆を実感する文化祭となりました。

就職ガイダンス

6月12日、全校生徒を対象に就職ガイダンスを開催しました。地元企業の方々をお招きし、各教室で多様な職業の魅力を直接伺いました。生徒からは「今考えている進路以外のことも知ることができたので、視野が広がった」「日々、多くの人たちによって幸せに暮らせていることを改めて感じた」といった声が聞かれました。地域の支えを実感するとともに、自身の将来や進路選択に向けた意識を高める貴重な一日となりました。



松高移動美術館



6月16日から7月13日まで、中高連携事業「松高移動美術館」を開催しました。本年度は松崎中学校と西伊豆中学校の2校を巡回し、美術コースや美術部の生徒が手がけた絵画や立体作品を展示しました。専門的な指導のもとで制作された本格的な作品の数々は、作品を通して高校での学びに触れる良い機会となりました。中学生が足を止めて熱心に見入る姿が見られ、本校の魅力や美術活動への理解をさらに深める展覧会となりました。

夏季球技大会

7月15日、夏季球技大会を開催しました。バレーボール、バスケットボール、バドミントンに加え、伊豆松崎分校の生徒とともにボッチャで交流を深めました。球技が苦手な生徒へもパスを回し、声を掛け合って全員が楽しめるよう工夫する姿が見られました。生徒は「勝敗以上にクラスの仲が深まった」と振り返り、分校との共生共育の成果を感じさせるとともに、競技を通して思いやりの心を育む機会となりました。



静岡県教育委員会では「静岡県教育応援基金」を通じ、学校を指定した寄付（ふるさと納税）を受け付けています。いただいた寄付は本校の教育活動や部活動の支援施設充実のために活用されますので、皆さまの温かいご支援をよろしくお願いします。



▲ふるさとチョイス

【問合せ】 松崎高校（４２）０１３１

ごろごろ野菜のミネストローネ

ーここがポイントー

★野菜を最初に炒めることで、野菜の甘みが引き出され、スープ全体にコクが加わります。

エネルギー	たんぱく質	脂質	炭水化物	食塩相当量
98kcal	3.9g	5.3g	11.5g	0.8g

(1食当たり)

ー材料(4人分)ー

玉ねぎ・・・・・・・・120 g (1/2個)
 ジャガイモ・・・・・・・・100 g (小1個)
 ニンジン・・・・・・・・40 g (1/4本)
 いんげん・・・・・・・・40 g (8~9本)
 ベーコン・・・・・・・・40 g (4枚)
 ゆで大豆(水煮缶)・・・・・・・・40 g
 トマト缶・・・・・・・・200 g (1/2缶)
 オリーブオイル・・・・12 g (大さじ1)
 水・・・・・・・・・・・・400ml
 塩・・・・・・・・・・・・2 g (小さじ1/3)
 こしょう・・・・・・・・・・少々

ー作り方ー

- ①玉ねぎ、ジャガイモ、ニンジンは皮をむき、1cm角に切る。いんげんは斜め薄切り、ベーコンは1cmの長さに切る。
- ②鍋にオリーブオイルとベーコンを入れて火にかけ、ベーコンから脂が出るまで炒め、玉ねぎ、ジャガイモ、ニンジンを入れ、さらに炒める。
- ③玉ねぎが透き通ってきたら、大豆、缶汁ごとのトマト、いんげん、水を加えて中火で20分煮る。
- ④塩・こしょうで味を調え、器に盛り付ける。



今年の特定
 健診会場で試食いただいた減塩
 メニューです。
 ぜひご家庭でも作ってみてください。



【問合せ】 健康福祉課(42)3966

町長コラム 第57回

読書立国

松崎町長 深澤 準弥

今回のテーマは、月刊誌「致知」の令和七年六月号において特集されたものです。

国の土台は人であり、人の土台は学びであり、その学びの基に読書があるという考え方は、本を読むことは、知識を増やすだけではありません。

先人の知恵にふれ、自分とは異なる立場や考え方を知り、物事を深く考える力を養うことにつながります。変化の大きい時代だからこそ、一人ひとりが落ち着いて考え、判断し、行動する力を持つことがますます大切になっていきます。

松崎町は、豊かな自然、歴史、文化、人の温かさに恵まれた町です。

こうした地域の魅力を次の世代へしっかりと引き継いでいくためには、子どもたちが本に親しみ、大人も学び続ける風土を育てていくことが重要です。読書は、学校教育だけ

のものではなく、家庭でも、地域でも、生涯にわたって続く営みです。

本を読む町には、会話があります。学びがあります。思いやりがあります。そして、自分たちの町をより良くしたいという志が育ちます。

一冊の本との出会いが、一人の人生を変えることがあります。

その積み重ねが、家庭を変え、地域を変え、やがて町の未来を形づくっていくと思います。私は、松崎町が豊かな自然だけでなく、学びの灯がともる町であり続けてほしいと願っています。

これからも、子どもから大人まで誰もが本に親しみ、学び、考えることのできる環境を大切にしながら、心豊かなまちづくりを進めてまいります。

※月刊誌「致知」は松崎町立図書館で読むことができます。

My Town Topics ～まちのできごと～

天王祭



7月11日から15日にかけて、町内各地で五穀豊穡や無病息災を願う天王祭が行われました。

峰輪区では、箕勾神社と野本神社での神事や神楽の奉納が行われ、峰区では、津島神社で神事を行いました。

また、松崎地区、東区などでは、「さんげ、さんげ」と唱えながら区内を練り歩いていました。

安曇地区訪問団来町

7月14日、姉妹都市「長野県松本市安曇地区」の訪問団が、松崎町役場を表敬訪問しました。

安曇地区とは、美しい環境を誇る観光地であることなど松崎町と同じ点に立脚することから、昭和56年10月24日に姉妹都市提携を結びました。

訪問団一行は、表敬訪問した後、記念撮影をしたり、干物づくり体験などを行い松崎町の魅力に触れていただきました。



自衛隊統合防災演習



7月23日、自衛隊の統合防災演習が行われました。

午前中は、マックスバリュ松崎店駐車場において給水支援訓練を実施し、自衛隊、町職員、災害ボランティアが連携して猛暑下でも効率的に給水支援を行えるよう、手順や動線を確認しながら意見交換を重ねました。午後は、松崎町総合グラウンドに会場を移し、自衛隊ヘリコプター2機を使用した救護者の搬送訓練を実施しました。

海岸ボランティア

7月23日から8月16日にかけて、松崎中学校の生徒が協力し、松崎海岸の清掃活動を行いました。

活動は午前6時から開始し、旧松崎港から松崎海岸にかけて、枯れ枝の回収や砂浜に落ちているごみ拾いを実施しました。

清掃活動には、ポートクラブや地域住人の方々にご協力いただいています。



My Town Topics ～まちのできごと～

みんなの食堂



7月25日、伊豆・駿河屋と明治商家中瀬邸にて古民家スクエア実行委員会（商工会）主催の第2回「みんなの食堂」を開催されました。

当日は地元の方々に提供して頂いた物を使用し、夏野菜をたっぷり使った「夏カレー」を提供し家族や友人と会話を楽しみながらカレーを味わいました。子どもたちからは「野菜が大きかった」「少し辛かったけど美味しかった」などの声も聞かれました。

松崎さんさん囲碁クラブ

8月12日、松崎町総合福祉センターで、松崎さんさん囲碁クラブの8月例会が行われました。

8月の例会は宮石京一さんが制しました。

松崎さんさん囲碁クラブは、平成10年から続く松崎町の男性サークルで70代～80代の方が毎週水曜日に活動をしています。

興味がある方はぜひ、松崎町社会福祉協議会にお問い合わせください。



令和8年熊本地震義援金・支援金



8月12日、令和8年熊本地震の義援金と支援金の贈呈がありました。

この義援金・支援金は、松崎町災害ボランティアコーディネートの会、他3団体が8月9日に募ったもので、義援金は松崎町役場から日本赤十字社を通じて被災地の皆さまへ贈られます。

支援金は、松崎町社会福祉協議会から中央共同募金会を通じて被災地支援団体へ贈られます。

雲見海岸花火大会

8月15日、雲見地区で花火大会が行われ会場には花火を見ようと約300人の観光客が訪れていました。

雲見漁港からは「海上扇菊」「海上朱雀」をメインにスターマインなど400発の多彩な花火が打ち上げられました。

大きな花火が打ち上げられると、観光客から「きれい」「近くて迫力ある」などさまざまな声が聞こえました。



町の人口と世帯

(令和8年7月31日現在)

() 内は前月比

総人口	5,382人	(-12人)
男	2,557人	(-7人)
女	2,825人	(-5人)
世帯数	2,790戸	(-1戸)
転入	6人	転出 7人
出生	1人	死亡 12人

戸籍(7月届出分)だより

お悔み申し上げます(死亡)

地区	氏名	年齢	届出	人
南郷	土屋いく代	91	土屋	雅裕
江奈2	佐藤 公正	79	佐藤	祐一
池代	山本 義憲	84	山本	芳紀
松尾	齋藤さだ子	94	齋藤	壽一郎
伏倉	神鳥 五郎	78	神鳥	睦
中村	後藤 福枝	98	後藤	伴三

※この欄に掲載を希望されない場合は、お申し出ください。

町の人事

【退職】7月30日付け

市川 莉子 健康福祉課

【採用】8月1日付け

加藤 貴子 教育委員会事務局

町の交通事故

令和8年7月発生分

() 内は前年同月比

人身事故	0件	(±0)
物損事故	14件	(+6)
死者	0人	(±0)
傷者	0人	(±0)

気を付けよう! 「定期購入」トラブル

今やスマホやインターネットがない生活が考えられなくなりつつありますが、便利な一方で、インターネットを巡るさまざまな消費生活トラブルも起こっています。

中でも「定期購入」トラブルは、ここ数年、賀茂地域の消費生活相談件数の上位を占めており、新しい手口も現れていることから注意が必要です。

最新の手口

最近の相談では、このような事例がありました。

・お得なクーポン券のボタンが表示されたので押したと

ころ、別の商品の定期購入を申込みすることになってしまった。

・手が滑って購入ボタンを触ってしまったら、「最終確認画面」に移行することなく、いきなり注文が確定してしまった。

ここに注意!

・「初回限定」、「1回限り」の特別価格や「定期縛りなし」の表示があっても、それは定期購入が前提になっているかもしれない。注文前に、契約内容を改めて確認しましょう。

【問合せ】

賀茂広域消費生活センター
(24) 2299

松崎文芸

俳句

角帯の腰に差したる団扇かな
腰に差すうちわも軽し若い衆
夏一字無地のうちわに「愛」の文字
炊き立てをうちわで冷まし酢飯の香
閑店の老舗鰻屋洪団扇
夕暮れて一日平穩うちわ風
後輩を気遣ふ団扇女学生
友来たる団扇タオルを差し出して
風鈴の鳴り澄める夜の闇深し

深澤 順子
洪谷みどり
小林 一郎
山本美代子
鈴木 基
松田美智子
山本 一詞
清水 高子
石田 宏